

各市町取り組み紹介 Part 1 江津市、三次市 H. 23. 11. 16

三江線活性化協議会では、三江線は日常的に活用する路線という位置づけで、沿線地域を対象とした回数券補助、イベント補助等さまざまな取り組みを実施しています。また、乗客減少の歯止めの一つとして、バスや二次交通との連携、イベントの企画、旅行プランのPRなど、各市町でさまざまな取り組みをしています。これまでの各市町の取り組みでまだ紹介していないものを2度にわたり載せていきます。

江津市各種団体訪問 H. 23. 6. 21

江津市では、済世会江津総合病院、商業集積グリーンモール、高校、金融機関など訪問しました。各種補助制度の周知や、三江線の利用状況などをうかがいました。桜江町の川戸駅から江津市駅まで約30分ということもあり、病院へ通院、高校への通学など三江線を日常的に利用される方があります。この訪問後、回数券補助では初めて購入される方も増え、毎月一定数の補助申請が出ています。イベント補助制度も公民館など新規の申請が出ています。

三江線モデルプラン（江津版）

PRに向けて三江線と沿線地域の連携旅行商品（江津版）を作りました。これは、石見神楽の鑑賞や、日本海の食、江津本町藁街道の散策、三江線乗車などを楽しむ旅（日帰り）となっています。団体での行事にしたい、旅行の企画を立てたいなどのご相談がありましたら協議会事務局（0855-72-0015）までご連絡ください。

三次市各種団体訪問 H. 23. 9. 5～9. 6

三次市では、コミュニティーセンターをはじめ、三次総合病院、サングリーンなどの商業施設、川の駅常清、奥田元宋・小由女美術館、三次ワイナリー、君田温泉などを訪問しました。

コミュニティーセンターで以前から活用していただいていたり、積極的に集客誘致に取り組みたいという声も聞くことができました。

この訪問の結果、コミュニティーセンターよりイベント補助の依頼があったり、川の駅常清、サングリーンで三江線フォトコンテスト作品の展示をしたり、観光施設と温泉の連携などの動きが出てきたりなど、周知や活用に広がりが出てきています。

さくぎにこにこ便の運行 H. 23. 10. 5～

地域の方の交通の足として「さくぎにこにこ便」（コミュニティーバス）の運行が始まりました。これは香淀駅、伊賀和志駅の三江線の時刻とも連動しており、他にもバス停、診療所、主要施設などを経由します。三江線までの交通が不便な方にとって欠かせない交通と

なっています。(お問い合わせは、三次市 作木支所 0824-55-2112 まで。)



川の駅常清でのフォトコンテスト作品展示
(10月30日 ~ 11月30日)



サングリーンでのフォトコンテスト
作品の展示 (11/4 ~ 11/11)